

# 日立市のプロフィール

## 日立市の将来の都市像 「生活未来都市・ひたち」

～知恵と自然が響き合い、暮らしを明日につなぐまち～

「生活未来都市・ひたち」は、「ものづくり都市」として新たな価値を生み出す力と、人々の生活の歴史や文化が相互に作用し合い、地域の魅力を高め合う懐の深いまちの姿、それを未来に向けてつないでいこうとする強い意志を表しています。

本市は、「ものづくり都市」として培われた知恵や技など、貴重なまちの資産を受け継いでいます。また、先人たちにより築かれた「ひたちらしさ」を大切にしてきました。これからも、相互の信頼を基礎とした人と人の絆、地域の力を大切にしながら、誰もが生き生きと暮らせるまちづくりを進め、次の世代に自信をもって引き継いでいける「ひたちらしさ」を守り育てます。

### ＜ 位置及び地勢 ＞

日立市は、茨城県の北東部に位置し、東側は太平洋に面し、西は常陸太田市、南は那珂郡東海村に、北は高萩市の2市1村に接しています。

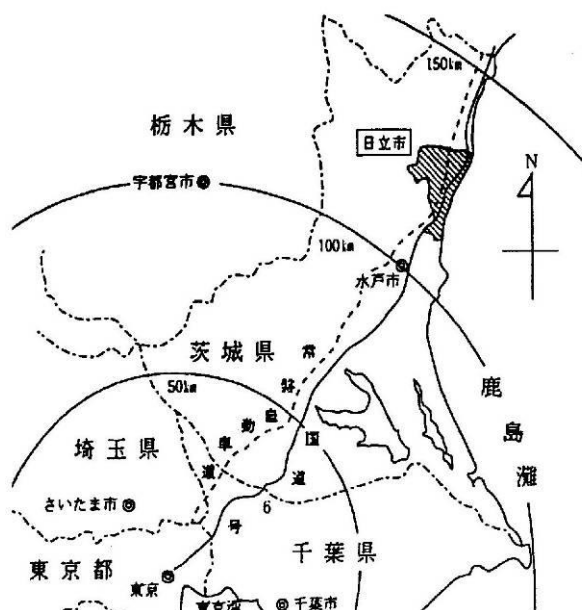
市域は東西 17.9km、南北 26.3km、総面積は 225.86k㎡、首都東京から約 150km の距離にあります。

市の東側の平地を J R 常磐線、国道 6 号が南北に縦断するほか、市街地から南下して那珂湊方面に向かう国道 245 号が通っています。

明治以降は、鉦工業都市として発展するとともに、県北の経済・産業・文化の中心となっています。

地勢は、東部は海岸線に沿った細長い帯状の洪積台地で全面積の 3 分の 1 を占めており、北西部のほとんどが、阿武隈山地の支脈である多賀山地が連なっています。

南は関東平野の最北部を占める久慈川下流の沖積低地になっています。気候は海洋性気候であり、年平均気温は 15.1 度で比較的温暖な気候に恵まれています。



## 〈 変 遷 〉

明治の中頃、一寒村にすぎなかった当市に、明治 38 年（1905 年）日立鉱山、続いて明治 43 年（1910 年）に日立製作所が創業し、昭和 14 年（1939 年）日立鉱山と日立製作所の発展により人口が増加し、産業を始めとする土地利用が密接になり、多賀郡日立町と多賀郡助川村が合併し、日立市が誕生し、国勢の推移とともに、全国有数の鉱工業都市として発展しました。

しかし、太平洋戦争末期、軍需産業の拠点の一つであった本市は、爆撃、艦砲射撃、焼夷弾攻撃の相次ぐ戦災にみまわれ、全市街地の約 7 割が焦土と化し、壊滅的な打撃を受けましたが、戦後いち早い復興を遂げ、昭和 30 年（1955 年）に久慈郡と多賀郡の 1 市 2 町 4 箇村が、翌年（1956 年）には多賀郡豊浦町が合併、また、“未来につなぐまちづくり”として平成 16 年 11 月 1 日「市町村の合併の特例に関する法律」（合併特例法）の適用を受け、隣接する十王町と合併しました。

平成 23 年 3 月の東日本大震災を教訓とし、将来の都市像を「生活未来都市・ひたち～知恵と自然が響き合い、くらしを明日につなぐまち～」と定め、市民・事業者・行政が一体となり災害に強いまちづくりの実現に取り組んでいます。

### 「日立」という名の由来

日立という市の名称は、「水戸黄門」として人々に広く知られている、水戸藩 2 代藩主徳川光圀公(義公)が当時の日立地方を訪れ「日の立ち昇るところ領内一」と称えたという故事に由来すると言われてしています。

## 〈 市の紋章・市のイメージマーク等・市の花・市の木・市の鳥・市のさかな 〉

市の紋章（昭和 15 年 4 月 1 日制定）



「日立」の「日」の字は円で型取り、「立」を極めて巧妙な花に図案化し、「日立」の 2 文字を完全に現している。

円は円満な発展を意味し、中央の立てる花は、華やかにしていんしん殷賑を思わせている。全体を通じて華麗のうちに落ちついた力強いものが迫ってくる。

市のイメージマーク・キャッチコピー（平成 19 年 4 月 6 日制定）



日の立ち昇るところ領内一と言われた日の光の輝き、市の花さくらや太平洋に開けた豊かな大地に恵まれ、創造、触れあい、ゆとり、潤いに満ちて飛翔する市民の喜びをイメージしてデザイン化した。

市の花 サクラ(昭和 52 年 7 月 15 日制定)



5 枚の花びらは、ひたちの「ひ」の文字のデザインで、互いに手をつなぎあい、市のサクラとしてたいせつに育て見守っていくことをイメージ化した。

市の木 ケヤキ(昭和 52 年 7 月 15 日制定)



日立市民の暖かくしかも力強い腕の輪によって、市の木を永遠に保存する意味をこめたもの。  
また、日立の文字も抽象的にデザイン化されている。

市の鳥 ウミウ(平成元年 12 月 26 日制定)



大きな太陽を全身に受け輝いている「ウミウ」をデザイン化したものである。

市のさかな さくらダコ(平成 15 年 9 月 24 日制定)



大きくて元気な「さくらダコ」をイメージしてデザイン化したものである。

◇ 位置及び範囲

令和3年4月1日現在

日立市の位置						市役所の位置	
方位	経度	距離	方位	緯度	距離	所在地	経緯度
極東	東経 140° 43' 00"	17.9km	極南	北緯 36° 28' 54"	26.3km	助川町 1-1-1	東経 140° 39' 02"
極西	東経 140° 31' 00"		極北	北緯 36° 42' 53"			北緯 36° 35' 56"

面積 225.86k m<sup>2</sup>

出典：日立市の統計

◇ 日立市の人口（常住人口）

令和3年4月1日現在 総人口 172,274人  
世帯数 77,968世帯

◇ 常住人口と世帯数の推移

年次	調査日	世帯数	人口			備考
			総数	男	女	
明治 38年	12月31日	382	2,467	1,220	1,247	
43年	12月31日	557	3,266	1,716	1,550	
大正 4年	12月31日	1,671	6,641	3,853	2,788	
9年	10月1日	6,108	25,263	13,014	12,249	第1回国勢調査
14年	10月1日	5,132	23,681	12,196	11,485	第2回国勢調査
昭和 5年	10月1日	5,592	27,811	14,003	13,808	第3回国勢調査
10年	10月1日	6,338	34,533	18,279	16,254	第4回国勢調査
						昭和14年9月1日市制施行 (助川町、日立町合併して日立市となる)
昭和 15年	10月1日	15,796	82,885	43,727	39,158	第5回国勢調査
17年	10月1日	17,124	89,526	46,530	42,996	
19年	2月22日	17,446	93,083	48,355	44,728	
20年	11月1日	10,047	38,525	19,453	19,072	終戦
21年	4月26日	9,291	43,376	21,402	21,974	
22年	10月1日	10,554	50,159	24,919	25,240	第6回国勢調査
25年	10月1日	11,754	56,066	27,821	28,245	第7回国勢調査
30年	10月1日	26,436	131,011	65,117	65,894	第8回国勢調査 昭和30年2月15日1市2町 4箇村合併、昭和31年9月20日豊浦町合併
35年	10月1日	36,634	161,226	83,977	77,249	第9回国勢調査
40年	10月1日	43,054	179,703	92,144	87,559	第10回国勢調査
45年	10月1日	50,975	193,210	97,458	95,752	第11回国勢調査
50年	10月1日	56,303	202,383	101,615	100,768	第12回国勢調査
55年	10月1日	62,980	204,596	103,002	101,594	第13回国勢調査
58年	10月1日	65,433	206,260	104,055	102,205	
60年	10月1日	65,619	206,074	103,634	102,440	第14回国勢調査
平成 2年	10月1日	67,984	202,141	101,788	100,353	第15回国勢調査
7年	10月1日	71,759	199,244	100,637	98,607	第16回国勢調査
12年	10月1日	73,018	193,353	97,084	96,269	第17回国勢調査
16年	11月1日	78,412	201,869	100,542	101,323	平成16年11月1日 合併特例法の適用を受け多賀郡十王町と合併
17年	10月1日	76,659	199,218	99,212	100,006	第18回国勢調査
22年	10月1日	77,965	193,129	96,747	96,382	第19回国勢調査
27年	10月1日	78,625	185,054	92,595	92,459	第20回国勢調査
28年	10月1日	78,791	183,000	91,469	91,531	
29年	10月1日	78,314	180,781	90,374	90,407	
30年	10月1日	78,604	178,658	89,316	89,342	
令和元年	10月1日	78,337	176,069	87,833	88,236	
令和2年	10月1日	77,813	174,635	87,139	87,496	第21回国勢調査

# 日立市消防の一目統計

令和3年4月1日現在

	消防予算	署 所	職 員 数	団 員 数
消 防 機 構				
	31億8,902万9千円 (令和3年度当初予算)	本部 1 消防署 4 出張所 2 派出所 1	総 員 285人 うち女性 4人 市民604人に 1人	総 員 396人 うち女性 15人 市民434人に 1人




令和3年4月1日現在

	ポンプ車・救急車	特 殊 車 両 等	水 利
消 防 車 両 ・ 水 利			
	ポンプ車 8台 救急車 9台	はしご車 3台 化学車 2台 救助工作車 2台	津波水害車 1台 水陸両用車 1台

令和2年

	火 災 件 数	救 急 件 数	救 助 件 数
火 災 ・ 救 急 ・ 救 助			
	27件(約14日に1件) [主な件数] 1 電気関係 8件 2 放火(疑い含む) 4件 3 たばこ 2件	8,456件(1日に約23件) [主な件数] 1 急病 5,716件 2 一般負傷 1,165件 3 交通事故 418件	86件(約4日に1件) [主な件数] 1 交通事故 35件 2 建築物等による事故 31件 3 火災 3件

令和2年

	査 察 対 象 物	立 入 検 査	防火対象物定期点検報告制度
予 防			
	査察対象事業所数 危険物施設数 4,287件 912件	査察対象物立入検査実施数 危険物施設立入検査実施数 1,457件 171件	定期点検報告該当対象物数 特例認定対象物数 176件 97件

## 日立市消防のあゆみ

年 次		で き ご と
明治の末期		日立・高鈴両村に腕用ポンプを持った消防組を設置する
大正の初期		日立・高鈴両村の村長を組頭として、公設消防組となる
大正 13 年		両村に町制が施行され、日立町、助川町とも消防組と改組する
(年)	(月)	警防団令公布、警防団と改称する
昭和 14	9	両町が合併して市制を施行。警防団を 13 分団、1,200 人に編成する
昭和 22	4	勅令第 185 号により、消防団と改称する
昭和 23	4	消防組織法により団条例を改正、編成を 8 分団、120 人とする
昭和 25	6	職員 17 人、消防車両 1 台をもって、消防本部・消防署が発足する
昭和 26	5	職員 6 人増、総員 24 人 消防車両 2 台となる
昭和 28	3	職員 3 人増、総員 27 人 救急業務を開始する
		独身待機宿舎を新築する
昭和 30	2	1 市 2 町 4 村合併、消防団 6 分団、1,300 人となる
	9	職員 8 人増、総員 35 人
昭和 31	4	職員 15 人増、総員 50 人 多賀出張所を開庁する
		中短波無線装置を導入する（基地局 2、移動局 3）
		消防団、結団式により、消防団を 1 団 27 分団、373 人に編成する
	9	豊浦町の合併により、消防団を 29 分団、403 人に編成する
	11	職員 2 人増、総員 52 人 多賀出張所にて救急業務を開始する
昭和 35	7	職員 16 人増、総員 68 人 久慈出張所を開庁する
昭和 36	10	職員 10 人増、総員 78 人 加性出張所を開庁する
昭和 37	11	職員 17 人増、総員 95 人 本部の機構改革を行い、総務、消防の 2 課 4 係となる
		消防本部庁舎建設
昭和 38	4	職員 6 人増、総員 101 人 18m 級はしご車を配置
昭和 39	1	日立市消防歌制定
昭和 40	4	職員 8 人増、総員 109 人 化学消防車を配置
	5	日本損害保険協会より普通ポンプ車の寄贈を受け、日立消防署加性出張所に配置
昭和 41	5	日立独身用待機宿舎を新築する
	7	多賀出張所庁舎を移転新築し業務を開始する
昭和 42	3	久慈出張所庁舎を移転新築し業務を開始する
	4	職員 10 人増、総員 119 人
	7	中短波無線装置を超短波無線装置に切替える（基地局 3、移動局 10）
昭和 43	4	職員 10 人増、総員 129 人
昭和 44	4	職員 10 人増、総員 139 人
昭和 45	3	加性出張所の庁舎、多賀世帯用待機宿舎を新築する
	4	職員 25 人増（うち女子職員 10 人）、総員 164 人
	6	消防艇「ひたち」を建造する

昭和 46	3	日立港に臨港出張所を開庁する 消防団を統合整備し、24分団、335人に編成する
	4	職員10人増（うち女子職員5人）、総員174人
	7	特別救助隊が発足
昭和 47	3	消防団を統合整備し、20分団、283人に編成する
		世帯用待機宿舎（一部独身用）を新築する（多賀第2棟）
		職員10人増（うち女子職員5人）、総員184人
		職員3人増（調理職員）、総員187人
		18m級屈折はしご自動車を配置
昭和 48	4	職員20人増、総員207人
		本部、消防署の機構改革を行い、本部に査察広報課を新設、総務、警防、予防の4課、多賀出張所、臨港出張所をそれぞれ署に昇格し日立と併せて3署2出張所となる
		臨港消防署の庁舎を移転新築し業務を開始する
昭和 49	4	職員31人増、総員238人 警防課に通信指令室を新設
	5	職員10人増、総員248人 週休16週18休制を採用
	10	日立消防署北部出張所を開庁、3署3出張所となる 久慈世帯用待機宿舎（一部独身用）を新築する
昭和 50	4	日本損害保険協会から救急車の寄贈を受け、日立消防署北部出張所に配置
昭和 51	2	日本損害保険協会から化学消防車の寄贈を受け、臨港消防署に配置
	4	北部出張所庁舎を移転新築し業務を開始する
昭和 52	6	広報車1台更新、1台購入
	7	本部指揮車を配置
	9	定数条例改正により定数268人になる
昭和 53	4	本部組織改正、通信指令室を課に昇格し指令室を新設、査察広報課を指導課、予防課を保安課と改称し4課1室となる
		職員6人増、総員254人
	5	救助艇を臨港消防署に配置
	11	普通ポンプ車1台配置
昭和 54	4	多賀消防署大沼出張所を開庁、3署4出張所となる
		大沼出張所開庁に伴い、日立市消防本部の組織を一部改正し、出張所を消防所に改称する 職員6人増、総員260人
	11	多賀消防署に24m級はしご車を配置
昭和 55	1	本部庁舎増築し、3階建となる
	4	職員4人増、総員264人
	5	日立市婦人防火クラブ発足
	8	消防署の機構改革を行い、日立消防署北部消防所を署に昇格、日立消防署西部機関員派出所を開庁、4署3所1派出所となる

昭和 55	8	多賀消防署大沼消防所に救急車を配置
昭和 56	4	職員 4 人増、総員 268 人
	7	北部消防署の指揮車を更新 広報車を日立消防署、臨港消防署に配置
	10	普通ポンプ車を多賀消防署に配置
	12	化学消防車を日立消防署に配置
昭和 57	2	総務課に広報車を配置
	7	本部の機構改革を行い教養課を新設、総務、警防、予防、消防、指令室の 5 課 1 室となる
	12	多賀、臨港、北部、各消防署に査察広報車を配置 日立、北部各消防署に普通ポンプ車を配置
昭和 58	1	日立消防署に救助工作車を配置 日本損害保険協会から救急車の寄贈を受け、日立消防署に配置
	3	本部庁舎の車庫増築
昭和 59	7	本部の機構改革を行い、消防課を廃止 4 課 1 室となる 消防署の組織を一部改正し、消防所を出張所に改称する
	12	(財) 日本防火協会から防火広報車の寄贈を受け、予防課に配置
昭和 60	3	常磐自動車道の開通に伴い、臨港消防署久慈出張所に救急車を配置
	8	常磐自動車道トンネル用携帯無線機 400MHz/W26 台を購入、指令室、各署所に配置
昭和 61	8	防火衣をアルミックス・Z に更新
昭和 62	3	臨港消防署の普通ポンプ車、救急車を更新
	7	本部の機構改革を行い、教養課を廃止、3 課 1 室 8 係とする 4 週 6 休の試行、週休 16 週 20 休を採用
	10	日立消防署西部機関員派出所に無線基地局を開局
	12	多賀消防署大沼出張所の救急車を更新
昭和 63	3	日立消防署の普通ポンプ車を更新
平成元	2	北部消防署の救急車を更新
	3	消防緊急情報システム導入 多賀消防署大沼出張所の普通ポンプ車を更新
	8	土曜閉庁の実施
	11	多賀消防署の普通ポンプ車を更新
平成 2	12	日立消防署加性出張所の普通ポンプ車を更新
平成 3	2	臨港消防署の消防艇「ひたち」を更新
	10	日立消防寮を閉寮する
	12	多賀消防署の普通ポンプ車を更新
平成 4	3	臨港消防署の化学消防車を更新
	12	日立消防署の普通ポンプ車及び日立消防署西部機関員派出所の救急車を更新 多賀消防署の救急車を更新
平成 5	3	日立市防災協会から防火広報車の寄贈を受け、予防課に配置
	4	定数条例改正により定数 285 人となる



平成 5	4	職員 15 人増、総員 269 人
	10	救急救命士第 1 号誕生
	11	本部庁舎増築
平成 6	2	日立消防署の救急車を高規格救急車に更新
	3	日立消防署に 40m 級はしご車 1 台購入 北部消防署に普通ポンプ車を配置（増強）
	4	職員 10 人増、総員 278 人 週休 4 週 8 休を採用
平成 7	1	臨港消防署久慈出張所、北部消防署の普通ポンプ車を更新
	2	多賀消防署の救急車を高規格救急車に更新
	4	北部消防署田沢出張所を開庁、4 署 4 出張所 1 派出所となる 職員 8 人増、総員 286 人
	7	本部の査察車を更新
	10	緊急消防援助隊の救助部隊として登録
	11	臨港消防署の救助艇を更新 日立消防署訓練場を東滑川町に移転
平成 8	3	日立消防署の屈折はしご自動車を更新
	12	本部の広報車を更新
平成 9	2	臨港消防署の救急車を高規格救急車に更新
	3	日立消防署に救助工作車Ⅲ型を配置
	5	司令車を更新
	7	予防課の危険物広報車を更新
平成 10	3	多賀消防署のはしご自動車（24m 級）を更新 国際貢献としてミャンマーへはしご車、小型ポンプ付積載車を寄贈
	4	行財政改革を実施、総員 284 人
	12	北部消防署の救急車を高規格救急車に更新
平成 11	1	臨港消防署の普通ポンプ車を更新
	3	（財）日本消防協会から消防団本部車の寄贈を受け、警防課に配置
	4	行財政改革を実施、総員 283 人
	6	日立消防署の査察広報車を更新 予防課の査察車を更新
	7	日立消防署の指揮車を更新
	9	日立消防署の普通ポンプ車を更新
	10	日立消防署の化学消防車を更新 日立、多賀各消防署に情報収集用オートバイを配置
平成 12	4	本部の機構改革を行い指令室を廃止、3 課 10 係とする 行財政改革を実施、総員 280 人
	6	日立市消防本部発足 50 周年を迎える

平成 12	12	臨港消防署久慈出張所の救急車を高規格救急車に更新
		多賀消防署大沼出張所の普通ポンプ車を更新
平成 13	1	日立消防水難救助隊発足（隊員 13 人）
	3	消防緊急情報システム更新
	4	総員 275 人
		予防課市民広報係を調査広報係に改称する
	6	本部会議室改装工事
		市とのイントラ接続となる（本部）
	9	パソコン 31 台を配置
11	多賀消防署の普通ポンプ車を更新	
	臨港消防署の指揮車及び査察広報車を更新	
12	臨港消防署の資機材搬送車を更新	
平成 14	4	総員 278 人
	7	日立市防災協会から査察広報車の寄贈を受け、予防課に配置
	8	茨城県・日立市総合防災訓練実施（久慈川河口河川敷）
平成 15	3	日立消防署加性出張所の普通ポンプ車を更新
		多賀消防署大沼出張所の救急車を高規格救急車に更新
	4	総員 279 人
	9	日立駅前耐震性貯水槽設置（100 t）
11	西部機関員派出所の救急車を高規格救急車に更新	
平成 16	1	ワークステーションを活用したドクターカーとの連携実施
		日立消防署に消防活動二輪車（赤バイ）を 3 台配置
	2	日立消防署の普通ポンプ車（水槽付）を更新
		臨港消防署に水難救助車を配置
	3	国際貢献としてミャンマーへ消防ポンプ車（1989 年製）を寄贈
		4
	11	日立市と十王町との合併により、日立市消防団結団式が挙行される
日立市消防団に 7 個分団が加わり 27 分団、条例定数 451 人となる		
12	日立消防署の高規格救急車を更新	
平成 17	3	日立消防署西部機関員派出所庁舎を移転（第 7 分団と合築）
		多賀消防署の普通ポンプ車を多機能型消防ポンプ車（水槽付）に更新
	4	総員 278 人
	10	北部消防署田沢出張所の救急車を高規格救急車に更新
11	日立市婦人防火クラブを日立市女性防火クラブに改称する	
平成 18	3	日立消防署のはしご車をオーバーホール
	4	総員 277 人
	8	日立市消防拠点施設新設工事着工
平成 19	1	国際貢献としてタンザニアへ救急車（1995 年製）を寄贈

平成 19	4	総員 278 人 日立市消防団十王支団を廃止し、日立市消防団に統一する 隣接市消防職員相互実務派遣研修として、相互間各 1 人派遣及び受け入れる (高萩市・日立市事務組合消防本部、常陸太田市消防本部 期間：1 年間)	
	12	日立市消防拠点施設しゅん工	
平成 20	1	日立消防署加性出張所開庁・日立市消防本部日立消防署新庁舎で業務開始	
	2	日立市消防拠点施設開庁記念式典 多賀消防署の高規格救急車を更新	
	4	高萩市・日立市事務組合消防本部が解散し、十王消防署を日立市消防本部に編入する 総員 297 人 (定数 298 人) 北部消防署十王出張所開所、4 署 4 出張所 1 派出所となる 隣接市消防職員相互実務派遣研修として、相互間各 1 人派遣及び受け入れる (高萩市消防本部、常陸太田市消防本部 期間：1 年間)	
		8	(財) 日本宝くじ協会から消火・通報訓練指導車の寄贈を受け、予防課に配置
	9	市民生活安全フェスティバルを日立市消防拠点施設及び防災広場にて開催する	
	平成 21	2	携帯電話・IP 電話等からの 119 番緊急通報に係る位置情報システム運用開始 旧日立消防署加性出張所庁舎の解体撤去 (財) 日本消防協会から防災活動車の寄贈を受け、総務課に配置
日立市消防本部・消防署旧庁舎の解体撤去 日立消防署の屈折はしご車をオーバーホール 臨港消防署の高規格救急車を更新			
3		総員 297 人	
4		第 24 回茨城県幼年少年婦人防火大会を日立シビックセンターにて開催する	
7		多賀消防署のはしご車をオーバーホール	
10			
平成 22	3	日立市消防団第 22 分団詰所の移設建替	
	4	総員 298 人	
	5	北部消防署の高規格救急車を更新	
	6	日立市消防本部発足 60 周年を迎える	
平成 23	3	日立市消防団第 19 分団詰所新築建替 多賀消防署の指揮車を更新 臨港消防署久慈出張所の高規格救急車を更新	
		4	総員 296 人
		5	東日本大震災により大破した救助艇を廃船
	平成 24	3	東日本大震災により被災した臨港消防署久慈出張所の望楼を撤去 臨港消防署久慈出張所の査察広報車を更新 日立消防署の救助工作車Ⅲ型を更新
4			総員 296 人 高度救助隊発足 (隊員 16 人) トヨタカローラ新茨城株から査察指導車の寄贈を受け、予防課に配置

平成 24	10	日立市防災協会設立 30 周年式典開催
	11	災害対応型自家給油取扱所運用開始 茨城県・日立市総合防災訓練実施（日立港都市再開発用地敷外）
	12	臨港消防署久慈出張所の普通ポンプ車を更新 北部消防署十王出張所の高規格救急車を更新
平成 25	2	臨港消防署の消防艇「ひたち」を解役
	3	多賀消防署の一部解体、望楼を撤去
	4	総員 296 人 消防緊急情報システム更新（消防救急無線をアナログ方式からデジタル方式に切替え） 日立市防災協会から査察広報車の寄贈を受け、多賀消防署に配置
	6	臨港消防署の救助艇「日立」を更新
	10	多賀消防署大沼出張所の高規格救急車を更新
平成 26	3	日立消防署西部機関員派出所の高規格救急車を更新
	4	総員 296 人 24 時間ドクターカー運用開始 臨港消防署の化学消防車を更新
	7	総務省消防庁無償使用津波・大規模風水害対策車運用開始
	10	日立消防署のはしご車を更新
	12	日立消防署の高規格救急車を更新
平成 27	4	総員 293 人 国際貢献としてタイへ普通ポンプ車、小型ポンプ付積載車を寄贈
	9	国際貢献としてフィリピンへはしご車、化学車、救急車、普通ポンプ車を寄贈
平成 28	3	日立消防署田沢出張所の普通ポンプ車を更新 日立市消防団第 3 分団詰所建替
	4	総員 292 人 高萩市・北茨城市と連携・協働しラピッド方式ドクターカー運用開始 女性消防団員の活動開始
	7	多賀消防署庁舎を移設建替
	8	日立市消防拠点施設の訓練場を拡張整備（800 m <sup>2</sup> →3,540 m <sup>2</sup> ）
	9	多賀消防署新庁舎開庁
	12	日立消防署田沢出張所の高規格救急車を更新 多賀消防署の普通ポンプ車を更新
平成 29	2	国際貢献としてパキスタンへ救急車を寄贈
	3	旧多賀消防署庁舎解体撤去
	4	総員 294 人
	5	国内貢献として岩手県陸前高田市へ小型ポンプ付積載車を寄贈
	6	国際貢献としてフィリピンへ普通ポンプ車を寄贈
	12	日立消防署の普通ポンプ車を更新
平成 30	3	指揮隊車を配置

平成 30	4	総員 293 人
	10	国際貢献としてパキスタンへ普通ポンプ車 3 台を寄贈
	12	多賀消防署の高規格救急車を更新 多賀消防署大沼出張所の普通ポンプ車を更新
平成 31	3	臨港消防署の水難救助車を更新
	4	総員 293 人
令和元	9	臨港消防署の高規格救急車を更新
	10	Net119 緊急通報システム運用開始
	12	電話通訳センターを介した三者間同時通訳による 119 番多言語対応を開始
令和 2	2	警防課の団本部車を更新
		北部消防署の指揮車を更新
	3	臨港消防署、臨港消防署久慈出張所、多賀消防署大沼出張所閉庁
		南部消防署しゅん工
	4	総員 290 人
		南部消防署新庁舎開庁
	6	ラピッド方式ドクターカー運営協議会に常陸太田市が加入 日立市消防本部発足 70 周年を迎える
7	日立市消防団第 14 分団詰所を移設建替	
12	北部消防署の高規格救急車を更新	
令和 3	3	予防課の危険物広報車を更新
		旧臨港消防署庁舎解体撤去
		南部消防署拡張用地整備工事完了
	4	総員 285 人



日立さくらまつり

## 令和2年の主要行事

月 日	行 事 内 容
1/12 (日)	日立市消防出初式 (平和通り)
1/27 (月)・28 (火)	救急シミュレーション訓練 (日立市消防拠点施設)
2/14 (金)	防災講演会 (多賀市民会館・北野大さん)
2/26 (水)	消防活動技術効果確認 救助想定訓練 (日立市消防拠点施設)
2/27 (木)	消防活動技術効果確認 火災想定訓練 (日立市消防拠点施設)
3/ 1 (日)～7 (土)	春季全国火災予防運動 (視聴覚広報 ほか)
5/ 2 (土)～6 (水)	行楽期における林野火災予防パトロール (市内林道)
11/ 9 (月)～15 (日)	秋季全国火災予防運動 (視聴覚広報 ほか)
11/18 (水)	甲種防火管理再講習 (日立市消防拠点施設)
11/19 (木)・20 (金)	甲種防火管理新規講習 (日立市消防拠点施設)
11/27 (金)	消防職員意見発表庁内大会 (日立市消防拠点施設)
12/14 (月)	日立市女性防火クラブ結成40周年記念式典 (日立市消防拠点施設)
12/30 (水)・31 (木)	年末特別巡ら警戒 (市内一円)



ウミウ